

車内で廃油回収／燃料精製も地元で

バイオ路線バス発車



路線バスに注入されるバイオディーゼル燃料
 二日、十勝管内音更町の北海道拓殖バス本社

【帯広、音更】家庭から出る植物性食用油の廃油を原料としたバイオディーゼル燃料(BDF)の路線バス運行実験が十七日、帯広市と十勝管内音更町で始まった。期間は来年二月までで、バスの車内で廃油を回収し、燃料に活用する仕組みを初めて導入した。

十勝で冬季実験

全国初 来年2月まで

帯広市と地元バス会社二別村のBDF製造・販売会社などによる共同実験で、社がバス燃料に精製する。二千円の費用は新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が全額補助する。資源リサイクルの取り組みを通して住民に環境保護意識を高めてもらう一方、低燃費バス利用者を増やす狙いもある。

車内の運転席近くにはピルケースほどの大きさの廃油回収箱を置き、乗客がペットボトルなどに入れて持参した廃油を入れてもらう。回収した油は同管内更後志管内二七町の路線バスで昨年夏から秋に同様の実験が行われたが、冬季の実験は全国初という。BDFは厳冬期に凍る恐れがあり、十二月以降は軽油を混ぜる予定だ。

実験は、十勝バス(帯広)の帯広市内線(自衛隊稲田線)と北海道拓殖バス(音更)の帯広―音更線の二路線で、バス二台ずつを使い、約四月月かけ乗降客調査などを実施する。